



農村伝道神学校入学を

志す人たちへ

農村伝道神学校教師会

◇里山の豊かな自然の中で

農村伝道神学校(以下、農伝)は、町田市野津田に位置する里山の中にあります。四〇ヘクタールの野津田公園に隣接する、とても貴重で豊かな自然に囲まれた環境です。二〇〇七年に多くの方々のご協力を得て建設された新校舎(ストーン記念館)は、中庭を囲む平屋建てで、周囲の樹木にとっても良くとけ込んだ建物になっています。里山の豊かな自然に囲まれながら、伝道者への研鑽を積む環境が整えられています。

一万五千坪の校内敷地には、実習農場、地域に開かれた家庭菜園、竹林、栗林があり、

◇修業年限

現在、四年間の教職養成コース、最低一年間の継続教育

コース、単科の聴講生コースがあります。農伝の神学教育の方向性に共感する多くの講師陣によって充実した授業内容を期待することができ、これまでに受けた神学教育の履修内容によっては、二年次からの履修開始も可能です。

◇農伝における神学教育のウイジョン

農伝は、以下のような明確なヴィジョンと方向性を持って神学教育を考え、教職と信徒の伝道者養成に取り組んでいます。

一、「農」にこだわる

ー現場の神学ー

農伝は主として農村・地方教会に仕える教職・信徒伝道者の養成を行います。それは、農村という現場における宣教を見据えての神学教育です。農村的な地域社会、そこにある教会との対話の中で、現場の問題や課題を共有しながら神学教育を行います。さまざまに神学の営みと対話しながら、それを問い直し、聖書を読み直し、教会を変革して行く力は現場にあると考えています。

「農」へのこだわりは、農村という現場と農業へのこだわりですが、そのこだわりを通してこそ、都市化が生み出す貧困や差別や人権の抑圧など、

様々な問題に向き合う姿勢が問われていくこととなります。農伝は、この「農」にこだわりながら、諸問題を抱える現場を宣教の場としてとらえ、人間が生きる固有の現場から離れずに、教会の宣教を考える神学教育をおこないます。

二、戦争責任を担う

農伝は、「中央農村教化研究所」として創立されました。「教化」という言葉は、戦争で疲弊した農村をキリスト教化することで復興しようとする宣教論があったことを物語っています。

そのような宣教論に意味や必然性がなかったとは言えないとしても、侵略戦争でアジア・太平洋地域の農村を破壊した戦争責任を明確に認識する姿勢があったかどうか、真摯に問われなければなりません。

農伝は、自らの歴史を批判的に見据えながら、アジア・太平洋地域の人々と教会に対して、戦前・戦中・戦後の責任を告白し、その告白を實質化する神学教育を行います。

農伝は、自らの戦争責任の認識が希薄であったことを深く反省し、沖縄の人々と教会、かつて日本が植民地としたアジアの人々と教会との対話の中で、神学教育を行っていき

三、いのちと共生に向き合う

農伝のカリキュラムの中では、様々な実習が大きな割合を占めています。現在は毎週金曜日の午後、二年間の必修科目である農業実習(農業実習Ⅱはアジア学院での実習を選択することもできる)、毎週日曜日の教会実習、主に夏期実習としておこなわれる社会実習、台湾の玉山神学院との協力でおこなわれる台湾実習などがあります。

実習は、「農」にこだわる中で現場と出会い、そこにある諸課題と対話しつつおこなわれる農伝の神学教育の重要なカリキュラムとして位置づけられています。

実習はまた、すべてのいのちを敬い、一つ一つのいのちに寄り添う心を養うことです。様々な実習を通して、柔軟で開かれた姿勢を育て、多様性を重んじて共に生きる生活の視点に立って、教会の宣教を考える神学教育を行うことがねらいです。

農村伝道神学校入学を志す人たちが、一人でも多く興され、宣教の課題を広く担って、イエスの後に従う道を共に歩んで参りたいと祈り願っております。

「新任講師紹介」



佐藤 研

私はこの二〇一四年三月まで二三年間、立教大学の教員をしていました。新約聖書が専攻です。研究の中心は福音書とイエス、及びパウロ、更には初期ユダヤ教一般です。そうしたテーマを、いわゆる神学的ではなく、できるだけ「人間学」的に説明することを課題として来ました。ただ、農村伝道神学校では新約学担当の優秀な方が複数いますので割り込む隙間がなく、目下「禅キリスト教入門」なる奇妙な(?)授業を担当しています。このような授業の成立を許してくれた農伝の懐の深さに大変感銘を受けています。

何のためにこんな授業をするのか、その説明はややこしいのですが、簡単に言うと二つあります。一つには過去八百年の歴史を持つ日本の禅が、あと二〇年もすれば内的に壊滅すると思われること、もう一つは、儀式的宗教として残るでしょうし、それを担う僧侶になる資格製造のための専門道場も残るでしょう。また、多少の坐禅会などを催す寺も存在はし続けるでしょうし、「禅学」という禅の学問も展開され続けるでしょう。しかし、もっと深处にある禅の「いのち」とも言うべきものが人々の意識に真剣に昇ることはもはやなく、それを命懸けで求めることもなく、禅の全体が形骸化していくだろうということ、しかし、禅が保ってきた根源理解は、人間学的にも甚だしい重要性を持つことは確実であり、それが日本の土壌から失われていくとすれば痛恨の極みだと思います。何とかそれを食い止めたいのです。禅僧でもない私がそんな風に考えても中樞からは相手にされませんが、それでもそうした思いが背後にあつて、「禅キリスト教入門」などという授業枠を頂いて、受講者の皆さんには坐り方と禅の基本を身につけてもらっています。

他方、この禅宗の内的崩壊に関して、キリスト教側は「邪教が滅ぶのだから結構だ」などと嘯くことはできません。なぜなら、キリスト教自体、同じ自滅の道を歩んでいるからです。キリスト教も、「宗教」としての根源的体験付与の能力、またそれを自在に伝達する言語力が枯渇してしまっているのです。あと二〇年か三〇年もすれば、キリスト教はほぼ完全に「慣習的宗教」という枯渇体制に化すのではないかと思えます。そういうわけで、これからのキリスト教の担い手たちは、これまでのキリスト教言語の「換骨奪胎」をラディカルに遂行し、今まで足りなかった点への反省を真摯に行い、いわば第二次の「宗教改革」を行わなければならないかもしれません。そのためには、禅の真実理解の介入が極めて効果的であると私は思うのです。先のような授業を行っている理由は、その辺にあります。



山崎 正幸

私は、一九九二年から二〇一一年まで「牧会心理学」「心理学」「実践神学セミナー」を担当していました。今春横浜二ツ橋教会牧師就任に伴い、再び「牧会心理学」担当者となった次第です。どうぞよろしくお願い致します。二三年前、初めての授業で神学生の方々から「何故牧会心理学を学ばなければならぬのか」との鋭い問いかけを受けました。一九八八年第三〇回聖路加国際病院臨床牧会訓練でのスパーヴァイザーによる差別事件に端を発した臨床牧会訓練(CPE)や牧会心理学領域に対する根本的な捉え直しの問題提起でした。一言で言えば、CPEや牧会心理学は人間を真に総体として捉えることが出来るのか、という問いであつたと思えます。九年間の授業はこの問いを抱えての取り組みでした。誰が講師か分からないような教室での豊かな対話を懐かしく思い起こします。今回、前期授業はユングの元型論を援用しつつ、「全能なる癒し人」から「傷ついた癒し人」へと牧会者のパラダイムの変革を追求した牧会者論を提供しました。しかし、ここでも、議論は「キリスト教・牧師は人を癒せるのか」「癒しとは何か」と、より根源的な問いに向き合う対話の場となりました。「前提」を問う。これが農伝の授業の特徴でしょう。

それは学ぶ対象のみならず自らに向けた問いともなります。「牧会者とは何か」との問いは「私は何者か」との問いへとリンクするのです。私は、一三年前神奈川教区を離れ、教務教師として働いてきましたが、直前の三年間は緩和ケア病棟のチャプレンを担う機会を与えられました。日々死に向き合う人々と過ごすなかで、私自身も「牧会者とは何か」「私は何者か」と「前提」を問わざるを得なかったのです。「スピリチュアル・ケアワーカー」「臨床宗教士」というような括りを越境して、私は患者さん方との交わりの中で「牧会者」とされていくように思っています。後期の授業では、このチャプレンの経験を踏まえ、「病院チャプレンの働きから見えてきたパストラルケアの独自性」について発題し、対話の場を提供したいと考えています。教会の現場であつても、教会の独自性を発見することこそ重要課題だと考えるからです。それは自らの独自性発見へと繋がることでしょう。最後に、私個人としては、再度CPEの可能性を探りたいと思っています。新たな枠組みを創造し、農伝ならではのCPEを生み出したいものだとの密かな祈りです。

第三五回 戦争責任シンポジウム

二年 井口拓人

二〇一四年度本校で行われた戦争責任シンポジウムでは、櫻井重宣先生をお招きし、「戦争責任告白を共に」と招かれている「わたしども」は戦前、戦中の各個教会の記録が伝える息づかいを直視するとき」というテーマで講演をして頂いた。櫻井先生の穏やかなるも、静かに我々の心に深い思いを想起させる貴重な学びができ、まずはここに感謝の意を表明したい。今回のテーマにあるように、我々は各個教会の記録をもとに、戦後の混乱の中で生き延びたこれら資料が語りかけるところを櫻井先生に語って頂く事で、中間的客観的視点で、今一度「戦争責任」とは何かに思いを巡らすことができた。

今日日本は大いなる岐路に立たされていると言わねばならないだろう。集団的自衛権、憲法解釈などをはじめ、様々な問題に揺れ動き、しかしそれは止まることなく、確かに我々に軍踏の響きが次第に近づいてきている。そしてキリスト者である我々も、その現

実を目の前にして、日本基督教団としての自覚を再び確認せねばならない。そしてまさに本校では、教育の一柱として、戦争責任告白に重きを置いて、戦争責任告白に重きを置いている。然るに今、我々は、今一度、戦争責任告白とは、この激動の時代に於いて、如何なる意味を持つのか、何をなさねばならないのか、原点に立ち返らなければならぬと考える。過去に学ばねば、また未来を見ることは出来ない。したがって、今回の戦争責任シンポジウムでは、タイムトルにあるように、戦前、戦中の各個教会の記録をもとにした学びを通して、当時如何にして、この闘いの中に捲き込まれていったのか、或いは協力していったのかを、教会史のみならず、牧師間の速達電報や手紙、週報など全く身近な資料を通して、リアルに追体験することが出来た。

果たして我々が学んだのは、国家という次元によって戦争に加担する過ちのまえに、教会という次元、すなわち礼拝における国家儀礼の導入、皇



国天皇に関する祈祷、戦中に及んでは、必勝祈祷会、軍用機献納献金の全国的呼びかけ、そして日本基督教団は決戦態勢宣言と日本国全体は異様な暗雲に包まれている。しかしながら、我々は他に對しても自らに對しても深い傷を残しながら戦争の終結を迎えることになった。さらに、いわゆる「戦争責任告白」がなされるまで実に二〇年余の時を必要としている。この「戦争責任告白」は、その中にあるように、「世界の、ことにアジアの諸国、そこにある教会と兄弟姉妹、また、我が国の同胞」に對する罪責告白であると同様に神に對する罪責告白である。日本基督教団は信仰告白

と共に戦争責任告白によって合同教会として歩むことが赦されるのである。したがって今も後も、この戦争責任告白を軽視してはならない。この現代社会においても、日本の教会は、日本基督教団は戦争責任告白がある限り、神の前に、隣人に對して犯した過ちを悔い改めていくことによってこそ、その関係性は保たれ、更なる和解の福音が宣べ伝えられることが赦されていくであろう。それはマルコ一・一五「時は満ち、神の国は近づけり、汝ら悔改めて福音を信ぜよ」にあるとおりである。ここから我々はお発するのである。戦時下において、自他ともに苦しむ傷つけあい、世界初

子爆弾投下を受けた日本が、また薄暗い現代の時の中で三・一一の地震と津波と原発の深い傷を経験した我々は、その痛みを深きを知っているが故に、そして「世の光」「地の塩」であるが故に、更に、「見張り」の役割であるが故に、その使命を正しく果たさねばならない。そのような心を新たにした次第である。

今回、櫻井先生の講演を通して、戦後を生き延びた、貴重な各個教会の記録をもとに、今一度原点に立ち返って省みる事ができた。憂慮すべき方向に向かう日本において、再び過ちを繰り返すことなく、未来を考えることができたと感じる。次回の戦争責任シンポジウムにも期待したい。重ねてここに、櫻井重宣先生に感謝致します。

九州教区諸教会問安報告

二〇一一年以来、東北・奥羽教区、北海教区、沖縄教区の卒業生、関係教会、施設を問安して来ましたが、今夏は八月四日〜一日まで、九州教区を問安して参りました。旅程は下記の通りです。八

日間で一、三七〇キロを走り、一四教会、三施設を訪ね、九州教区夏の問安と長崎での平和集会出席のために会いできなかった方もありましたが、三人の方々にお会いすることができました。

- 四日…東京―宮崎空港
- 五日…西都教会(中村潯牧師…西都市)―日向新生教会(山本爽起子牧師…日向市)―延岡三ツ瀬教会(藤原仰牧師…延岡市)―別府野口教会(吉武二郎牧師夫妻…別府市)
- 六日…小野一郎牧師(玖珠)―吉武誠・恵「保育科卒」牧師夫妻(小郡市)―小倉東篠崎教会(福島義人牧師夫妻…北九州市)
- 七日…唐津教会(中山契生牧師)―犬養光博・素子牧師夫妻(松浦市)―佐世保教会(深澤奨牧師…佐世保市)
- 八日…大牟田正山町教会(梅崎浩二牧師…大牟田市)―荒尾教会(星健治・のぞみ牧師夫妻…荒尾市)―小平善行牧師夫妻(菊池市)―金聖孝牧師(在日大韓基督教熊本教会)
- 九日…熊本バンド史跡(花岡山)―水俣病資料館(水俣市)―阿久根伝道所(興水正人牧師夫妻…阿久根市)―山口寿明牧師夫妻(薩摩川内市)―川内教会(日下部遣志、戸田奈津子牧師夫妻)
- 一〇日…串木野教会(藤田房二・保子「保育科卒」牧師夫妻…いちき串木野市、礼拝メッセ―ジ担当)―川内原子力発電所―霧島
- 一日…霧島―都城妻ヶ丘教会(山田雅人牧師夫妻…都城市)―宮崎空港―東京

2015年度入学案内

■教育目標

- ・農村・地方教会に仕える牧師・信徒伝道者を養成します。そのため現場、農業実習、共同生活を大切にします。
- ・貧困・差別・人権という諸問題を神学の課題とします。
- ・戦争責任を明確にしアジアの人々と教会との対話の中で神学教育を行います。

■受験資格

- ①日本基督教団に限らずプロテスタント教会に所属し、原則として受洗後1年以上(洗礼式を行わない教派に関しては、それに準ずるもの)の教会生活をしていること。
- ②牧師・信徒伝道者となる召命を受け、所属教会が推薦すること。

■修業年限 4年

■入学試験

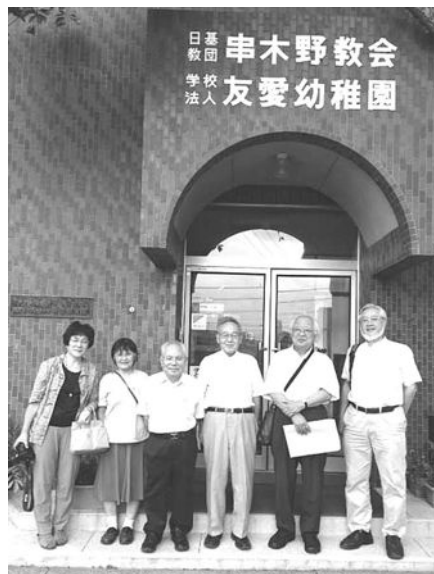
- 第1回 2014年11月26日(水)
- 第2回 2015年2月25日(水)

■入学試験科目

- (1) 小論文 (2) 新約聖書・旧約聖書 (3) 面接
- ・学校案内・入学願書・過去の試験問題等は神学校事務室まで請求下さい。
- ※ 学校見学・体験入学
希望する方は事務室に申し出下さい。授業参加、食堂の昼食、教師との面談をすることができます。

農村伝道神学校
〒195-0063 東京都町田市野津田町 2024
Tel 042-735-5775 Fax 042-735-5711
Eメール : noden@pony.ocn.ne.jp
ホームページ : http://www11.ocn.ne.jp/~noden/
振替番号
農村伝道神学校 00160-6-18485
農村伝道神学校後援会 00120-6-24418

農伝神学科、保育科卒業生ばかりでなく、いろいろな人々に出会ってお話を伺うことができ有意義でした。それぞれの地に力強く根を張って、幅広く豊かな宣教のお働きに力を注いでおられるご様子に、大変励まされ、今後の農伝での神学教育の方向性や在り方を考えるために、大切な示唆



働問題とも絡め合わせて、「皇帝への納税問題」をめぐるイエスの言葉をテキストに、何よりも現場の声を聴き、現場に学ぶことの意味を聴き取りました。心配した台風は少し東にそれたため、進路に当たってしまった人々には申し訳ないことですが、九州西部、南部

を与えられました。一〇日(日)は串木野教会で礼拝メッセージを担当し、前日に水俣病資料館を訪ねて少し時間をかけて資料を見たこともあって、川内原発の再稼働問題とも絡め合わせて、「皇帝への納税問題」をめぐるイエスの言葉をテキストに、何よりも現場の声を聴き、現場に学ぶことの意味を聴き取りました。

を訪問する時にはさほどの雨風にも合わず、予定通り問安の旅を終えて帰って来ることが出来ました。お訪ねしたお一人お一人と交流の時を持つことができ、心より嬉しく感謝いたしております。お一人お一人の上に、いのちと平和の神の顧みがゆたかにありますように、お祈りいたします。ありがとうございました。

論文の書き方。◆八月四日(月)〜一日(月)理事長と校長は九州教区を問安した。◆夏期実習
・台湾玉山神学院…小手川到 沼田弘行
・部落解放センター…井口拓人
・寿地区センター…表見聖
・川崎戸手教会…原龍馬
(実習報告会…一〇月三日)

お知らせ

- ◇農伝デイ・オープンキャンパス…一〇月一八日(土) 午前一〇時〜午後二時
- 講演会…「農伝と野津田公園問題」瀬戸英治(鶴川教会牧師)
- ◇今年度第一回入学試験
一二月二六日(水) 午前九時
- 「願書受付…一〇月七日〜一十月七日」

(校長 高柳富夫)